

# 東京都農林総合研究センター研究発表会

日時 平成 21 年 3 月 6 日 ( 金 ) 10 : 00 ~ 16 : 00

場所 ( 財 ) 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター 講堂

特別講演 『私の農業と体験農園』 14 : 00 ~ 15 : 00

練馬区農業体験農園 園主会 会長 白石好孝氏

<白石好孝氏プロフィール> 昭和29年、練馬区で300年続く農家に生まれる。平成3年、生産緑地法の施行で農業を続けるか、住宅地に転用するか選択を迫られ、仲間と連携して周辺住民の理解を得ながら、農業を続ける決意をする。練馬区と折衝を続け、平成9年に体験農園を開設した。15年にNPO法人「畑の教室」を設立して主宰に。教育・福祉事業として小中学生の農業体験を指導。16年には米国の「持続可能な農業教育を進める会(SAGE = Sustainable Agriculture Education)」と日米シンポジウムを開催。19年には白石農場の脇にイタリアンレストラン「La 毛利」をオープンした。現在、練馬区農業体験農園園主会会長、(独)農業者大学校講師、都民の暮らしが潤う東京農業推進協議会委員。平成3年東京都農協青壮年組織協議会委員長。4年全国農協青年組織協議会委員長。練馬区農業体験農園園主会 第38回日本農業賞集団組織の部大賞受賞。著書「都会の百姓です。よろしく」(コモンズ)、「体にやさしいおいしい野菜の作り方」(西東社共著)、「やさしい畑増刊 DVD LESSON」(家の光協会)など

自らの体験から、都市農業の魅力と、体験農園の可能性を語っていただきます。

10 : 05 ~ 10 : 20

**三宅島における森林植生の回復に関する試験 ~ 二酸化硫黄ガス濃度と土壌の理化学性が森林植生に及ぼす影響 ~**

三宅島では 2000 年の噴火以降、火山ガスが噴出し続けており、現在でも植生の回復がみられない区域があります。そこで、今後の造林・緑化に役立てるために火山ガス濃度と森林植生との関係、ならびに火山灰の厚さと土壌の理化学性の関係を明らかにしました。

10 : 20 ~ 10 : 35

**牛乳中の有用成分を高める飼養技術の開発 ~ 共役リノール酸が高まります ~**

共役リノール酸といわれる物質は、抗ガン作用およびダイエット作用などがあることが知られています。この研究では、脂肪を高めた飼料をウシに与え、牛乳中の共役リノール酸を高めると共に乳生産に影響を与えない飼養技術を開発しました。

10 : 35 ~ 10 : 50

**食品中微生物の高感度検出法 ~ 微生物検査における全ゲノム増幅反応の有効性 ~**

食品の微生物による事故を防止するためには、原材料における微生物の早期検出や、事故発生時の迅速な原因究明が必要です。本研究では、食品から直接抽出した DNA を全ゲノム増幅反応により増やし、遺伝子解析による微生物検査を行うことで、検査の感度向上と迅速化を図りました。

10 : 50 ~ 11 : 05

**スギ花粉症対策にむけて ~ バイテクを利用した少花粉スギの増殖と無花粉スギの育成 ~**

東京都ではスギ花粉発生源対策事業に取り組んでいます。少花粉スギの植林用苗木の大量供給を支える技術として、組織培養を利用したスギの増殖試験を行っています。また東京都保有の精英樹を片親とし、無花粉スギ系統群の育成を進めています。

11 : 05 ~ 11 : 20

**花マット植物づくりの技術改善 ~ 軽くて、マット化を容易にする用土の紹介 ~**

花マットの実用化向上のため、用土のこぼれを防ぐため使用している生分解性不織布の影響を調べました。また、これまでの用土の欠点(重く、保水性に難)を改良し、ヤシ殻やピートモスを加えることで、マット化および軽量化を促進することができました。

11 : 20 ~ 11 : 35

**ワサビの総合的病害虫管理技術(IPM)の開発 ~ 病害虫発生調査と防虫網による主要害虫の防除 ~**  
農業改良普及センター、奥多摩わさび生産組合と協力して、奥多摩地域のワサビ栽培で現在問題となっている病害虫の発生を確認し、発生消長や加害状況を調査しました。これら主要害虫の防除のために1mm目合いの防虫網の設置することで、高い効果があがり実用性が確認されました。

13 : 00 ~ 13 : 15

**ブルーベリーの品種比較 ~ 現在、栽培されている主要品種の特性について ~**  
都内のブルーベリー摘み取り園で栽培されている品種は、乾燥に強いラビットアイ種(RB)が中心ですが、今後ハイブッシュ種(HB)など他の品種の導入も予想されます。そこで、導入時の基礎資料とするために、都内で栽培した場合の既存品種の特性を調べました。

13 : 15 ~ 13 : 30

**東京から新しい切り花が誕生しました ~ ポインセチアの切り花栽培 ~**  
鉢物栽培で蓄積された技術を活用し、新たな市場開拓に向けて切り花用ポインセチアの開発に取り組んでいます。「遺伝資源植物」として「江戸川分場」で収集・評価・保存されている70品種から、切り花用に有望な赤色系11品種、白～黄色系4品種、桃色系7品種を選択しました。

13 : 30 ~ 13 : 45

**コマツナの安全性を確認しました ~ 農作物のグループ化による登録農薬残留特性の解明 ~**  
コマツナは東京の主要農作物ですが、使用できる農薬は限られていました。農薬取締法が改正され、農作物をひとつのグループとして農薬登録ができることとなりましたが、残留性に関する知見がない農薬がありましたので、コマツナに使用した場合の残留を確認しました。

15 : 00 ~ 15 : 15

**キュウリで確認された新しいうどんこ病菌とその発生生態 ~ 的確な診断と防除に向けた取り組み ~**  
2006年、都内のキュウリ生産圃場で新しいうどんこ病菌「オイディウム属レティックロイディウム亜属菌(OR菌)」の発生が確認されました。うどんこ病菌は病原菌ごとに性質が異なるため、防除の基礎的知見となる病原菌の性質や発生生態の解明を行いました。

15 : 15 ~ 15 : 30

**UVカットフィルムの活用 ~ 農薬使用を少なくするために ~**  
近紫外線除去(UVカット)フィルムは害虫防除機能があり、野菜の省農薬・高品質を可能とする有用な被覆資材ですが、高温期には生育を軟弱にするなどのいくつかの課題がありました。そこで、近紫外線の除去範囲の異なる数種のフィルムを用い、それらの実用性を検討しました。

15 : 30 ~ 15 : 45

**野菜の有望品種の選定 ~ おすすめ品種を紹介します ~**  
野菜の栽培においては、栽培時期、消費者の好みや作りやすさなどに応じて品種を選定することが大切です。今年度はキャベツ、トマト(促成長期どり)、ダイコン、サトイモの新品種を比較栽培し有望品種を選定しました。